

# 長崎県感染症発生動向調査速報

平成27年第46週 平成27年11月9日（月）～平成27年11月15日（日）

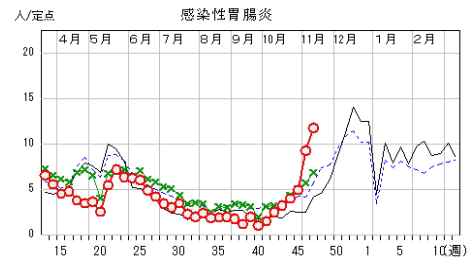
## ☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

### （1） 感染性胃腸炎

第46週の報告数は517人で、前週より110人多く、定点当たりの報告数は11.75であった。

年齢別では、1歳（105人）、2歳（82人）、4歳（62人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県北保健所（26.00）、西彼保健所（25.75）、佐世保市保健所（16.00）が多かった。

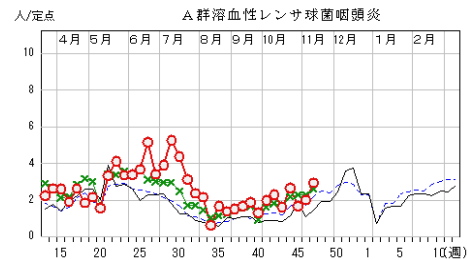


### （2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第46週の報告数は130人で、前週より42人多く、定点当たりの報告数は2.95であった。

年齢別では、10～14歳（20人）、4歳（16人）、5歳（16人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県央保健所（8.83）、県北保健所（5.00）、西彼保健所（3.25）が多かった。

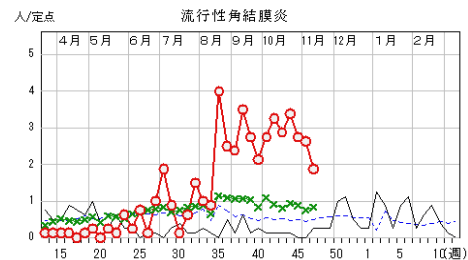


### （3） 流行性角結膜炎

第46週の報告数は15人で、前週より6人少なく、定点当たりの報告数は1.88であった。

年齢別では、30～39歳（3人）、1歳（2人）、3歳（2人）の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、西彼保健所（10.00）、長崎市保健所（1.33）、県南保健所（1.00）が多かった。



○ 当年(長崎県)      前年(長崎県)  
× 当年(全国)      前年(全国)

## ☆上位3疾患の概要

### 【感染性胃腸炎】

第46週の報告数は、前週より110人増加して517人となり、定点当たりの報告数は11.75でした。長崎地区以外の県下全域から報告があがっており、県北地区の26.00および西彼地区の25.75は警報レベル「20」を超えていますので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くを乳幼児が占めています。原因はノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早目に医療機関を受診させましょう。

**【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】**

第46週の報告数は、前週より42人増加して130人となり、定点当たりの報告数は2.95でした。県下全域から報告があがっており、県央地区の8.83は警報レベル「8」を超えていますので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁・唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早期に医療機関を受診するとともに、手洗いやうがいを励行し、感染防止に努めましょう。

**【流行性角結膜炎】**

第46週の報告数は、前週より6人減少して15人となり、定点当たりの報告数は1.88でした。長崎地区、西彼地区、県南地区から報告があがっており、西彼地区の10.00は警報レベル「8」を超えていますので、今後の動向に注意が必要です。

本疾患は、主にD群のアデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下することがあります。さらに、新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を発症し、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすので注意が必要です。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いため、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をアルコール綿でよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

**☆トピックス：ノロウイルスやエンテロウイルスによる感染症に注意しましょう**

感染性胃腸炎は、例年秋から冬にかけて全国で流行しています。これまで、ノロウイルスGⅡ.4を原因とする胃腸炎が多くを占めていましたが、今年に入り、新しい遺伝子型のノロウイルスGⅡ.17による胃腸炎が多数報告されており、今後大規模な流行が起こる可能性があるため注意が必要です。

感染経路は主に糞口感染が挙げられますので、食品の取り扱いに際して入念な手洗いなど衛生管理を徹底すること、食品取扱者には啓発、教育を十分に行う事が大切です。身近な感染防止策として、手洗いを実施し、吐物などウイルスを含む汚染物は、次亜塩素酸ナトリウムなどで消毒するか、85℃以上で少なくとも1分以上加熱して処理しましょう。

また、米国で2014年8月下旬に重症の呼吸器疾患を呈する患者数十人から検出された「エンテロウイルス68型（EV-D68）」に感染した患者が国内でも報告されました。米国では麻痺などの神経症状を呈する小児も報告されています。

現在、EV-D68に対するワクチンはなく、治療は対症療法が基本になりますので、今後の動向に注意し、インフルエンザウイルス等の対策と同様に、手洗いや咳エチケットなどの接触および飛沫感染予防策を実施しましょう。

厚生労働省 感染性胃腸炎（特にノロウイルス）について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/>

国立感染症研究所 ノロウイルス感染症とは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/na/norovirus.html>

国立感染症研究所 <速報>エンテロウイルス68型に関する主な知見と国内の疫学状況のまとめ  
(2014年11月4日現在)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/entero/entero-iasrs/5167-pr4181.html>

